

黙示録16章12-21節 「神の大いなる戦いの日」

1A ハルマゲドン 12-16

- 1B 東からの王たち 12
- 2B かえるのような汚れた霊 13-14
- 3B 盗人のように到来される主 15
- 4B メギドの丘 16

2A 大地震 17-21

- 1B 事の成就 17
- 2B 大地震 18-20
 - 1C 史上最大 18
 - 2C 大バビロンの崩壊 19
 - 3C 山々と島々の消失 20
- 3B 激しい雹の災害 21

本文

黙示録 16 章を開きましょう、今晚は後半部分、12 節から 21 節までを見て行きます。ついに、神の災いの最後を見ます。私たちは、前回、最後の七つの災害の初めの五つを見ました。それは主に、獣の国とその住民に対するものでした。第一の鉢は地に向けられ、その住民に酷い悪性の腫れ物ができました。第二の鉢は、海にぶちまけられて、それが血に変わりました。第三の鉢は、川と水の源に向けられました。それで人々が、血に変わったその水を飲まなければならなくなりました。これらのことは、彼らが聖徒たちを迫害し、血を流したことに対する報いであるとあります。聖徒たちに対する悪に対して、神が正しく報いておられるということです。そして第四の鉢は、太陽に向けられて、太陽の激しい炎熱で獣の国の住民は苦しみ悶えました。第五の鉢は、獣の座に向けられました。それで国全体が暗くなり、そこでも住民は苦しみました。ここで驚くことは、彼らは悔い改めていないことです。神の憐れみを呼び求めて叫んでいないことです。むしろ、災害をも支配する権威を持つ方に対して、冒瀆しました。すべてのもの源であられる神を知る、また知ろうとしない者たちの姿です。

1A ハルマゲドン 12-16

そして、第六の鉢による災いですが、獣の国の支配者が、最後のあがきをする準備をするところです。これだけの災害を受けて、神とキリストご自身に対して戦争をしかける、ハルマゲドンの戦いの始まりです。

1B 東からの王たち 12

¹² 第六の御使いが鉢の中身を大河ユーフラテスに注いだ。すると、その水は涸れてしまい、日の昇る方から来る王たちの道を備えることになった。

鉢は、「大ユーフラテス川にぶちまけ」られました。以前にも、9章14節でユーフラテス川のほとりにつながれている四人の天使が解き放たれて、二億の軍隊が人類の四分の一を殺した災いがありました。けれども、これは異なる出来事です。ユーフラテス川というのは、聖書の中で初めから終わりまで出て来る川です。創世記2章、エデンの園からの四つの川で、その主流になっているものがユーフラテス川でした。今は、その源流はトルコ北東部の山地から出ており、シリアを通過し、イラクでティグリス川に合流してペルシア湾に注がれます。全長約三千^{キロ}の国際河川です。それから、主がアブラハムに対して、彼に与えると約束された土地は、エジプトの川から、ユーフラテス川までというものでした(申命15:18)。この境界線は、今のシリア、ユーフラテス川の上流地域のことを指しているのでしょう。そして、後で出て来るバビロンは、この川の下流地域にあります。

そして、その川をさらに越えたところが「日の昇る方」というのは、はるか東にある国々であり、この戦いが全世界を巻き込むものであることが分かります。事実、西方のローマ帝国は、ユーフラテス川があったので、東からの勢力の進出をあまり気にすることなく統治することができていました。しかし今、この川が涸れたということは、一気にイスラエルと周辺が世界規模の軍事衝突が起こる危険性が増し加わります。

気になるのは、現在、ユーフラテス川の水量が非常に減っていることです。大患難においては、一気に減って、そのまま軍事進出ができるでしょう。そして東からの王たちですが、アジア諸国の世界戦略は中東へと引きつけられています。今、中国は一带一路という世界戦略を持っています。かつてのシルクロードに模した経済圏を広げるものです。そしてその要所に、軍事的拠点も置こうとしています。日本もかつては、第二次世界大戦の時にインドの国境まで勢力を広げました。終わりの日は、このような動きが一気に加速化します。

2B かえるのような汚れた霊 13-14

¹³ また、私は竜の口と獣の口、また偽預言者の口から、蛙のような三つの汚れた霊が出て来るのを見た。¹⁴ これらは、しるしを行う悪霊どもの霊であり、全世界の王たちのところに出て行く。全能者なる神の大いなる日の戦いに備えて、彼らを召集するためである。

獣の国の座が鉢によって壊された今、獣の国の支配者が最後のあがきをします。獣は、反キリストのことです。反キリストに力と権威と位を与えたのは竜、悪魔です。そして反キリストの代理人として、しるしや不思議を行ない、獣の像を拝ませたのは偽預言者です。そのトリオ、偽の三位一体が動いて、全世界の王たちを惑わします。その方法ですが、「蛙のような三つの汚れた霊」です。

蛙は、レビ記 11 章では汚れた動物とされています。水の中において、ひれやうろこのないものの範疇に入ります。けれども、またなぜ、かえるのような悪霊になるのでしょうか？これは「軍隊の進出をよく表しているのではないか」と言う意見を聞いたことがあります。軍隊が遠征する時は、あるところまで行ってそこを拠点化して、それからまた前進して他のところを拠点化します。その様子が、蛙が飛び跳ねて移動している様に似ているからではないか、ということです。

そして、彼らが行なうのは「しるし」です。これは、世の終わりの時の特徴です。「2テサロニケ人 2:9-10 不法の者は、サタンの働きによって到来し、あらゆる力、偽りのしるしと不思議、また、あらゆる悪の欺きをもって、滅びる者たちに臨みます。彼らが滅びるのは、自分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。」私たちは、基本的に世俗的な社会に生きています。つまり、超自然的なことは受け入れない社会に生きています。けれども、世に天変地異が起り始め、国々も激しく騒ぎ立ち、その中で合理主義では説明できないことがたくさん出てきています。しかし、その拠り所を、イエス・キリストの福音以外のところで求めていくとき、世界の指導者たちまでが不思議や徴に惑わされる時がやってきます。

しかし驚くべきことは、これが彼らの戦いではなく、むしろ全ての出来事が、完全に神が掌握しておられる、神の大いなる戦いだということです。「全能者なる神の大いなる日の戦い」と言っています。彼らが神ご自身に対して戦いをいどむために集められるのですが、しかしそのことをさえ神はご存知で、その戦いによって神は彼らに裁きを下されます。

このように、神とキリストに反抗して、王たちが一つになって反抗するということは、詩篇第二篇で預言されています。「詩篇 2:1-6 なぜ国々は騒ぎ立ちもろもろの国民は空しいことを企むのか。2 なぜ地の王たちは立ち構え君主たちは相ともに集まるのか。【主】と主に油注がれた者に対して。3 「さあ彼らのかせを打ち碎き彼らの綱を解き捨てよう。」4 天の御座に着いておられる方は笑い主はその者どもを嘲られる。5 そのとき主は怒りをもって彼らに告げ激しく怒って彼らを恐れおののかせる。6 「わたしがわたしの王を立てたのだ。わたしの聖なる山シオンに。」そして、ヨエル書 3 章にも、国々が神によって集められることが預言されています。「ヨエル 3:9-12 「国々の間で、こう叫べ。聖戦を布告せよ。勇士たちを奮立たせよ。すべての戦士たちを集めて上らせよ。10 あなたがたの鋤を剣に、あなたがたの鎌を槍に打ち直せ。弱い者に『私は勇士だ』と言わせよ。11 周りのすべての国々よ。急いで来て、そこに集まれ。——【主】よ、あなたの勇士たちを下らせてください——12 諸国の民は立ち上がり、ヨシャファテの谷に上って来い。わたしがそこで、周辺のすべての国々をさばくために、座に着くからだ。」ヨシャファテというのは、ケデロンの谷の一部で、オリーブ山と神殿の丘のモリア山の間にある部分を指しています。

イスラエルの歴史の中で、既にこの動きに似たものが起こっていました。ヨシュアたちが約束の地に入ってからのことです。彼らはエリコとアイを陥落させました。すると王たちは一つになって、

集まって戦おうとしています。「ヨシュア 9:1-2 さて、ヨルダン川の西側の山地、シェフェラ、レバノンに至る大海の全沿岸のヒッタイト人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の王たちはみな、これを聞くと、2 とともに集まり、一つになってヨシュアおよびイスラエルと戦おうとした。」彼らは南の王たちでしたが、この後でハツォルの王を中心とする北の王たちが、相集まって攻めて来ました(14 章 1-5 節)。その度に、ヨシュアたちは一挙に彼らを打ち倒すことができました。ですから、彼らは神の働きに相集まって戦いをいどむのですが、その戦いがかえって彼らが一挙に滅ぼされる神の裁きとなっているのです。

人間は、国ごと、民族、国語、いろいろな階層、またいろいろな信条や思想などによって、それぞれが対立しているかのように見えます。けれども、根本においては二種類の人々しかいません。それは、全ての支配者である神に自分を明け渡した者か、あるいは反抗しているかの違いです。イエス様が十字架に付けられる時に、いつも仲違いしていたヘロデ王とローマ総督ピラトが仲良くなったということを思い出してください。いつもは対立しているのに、神とキリストのことになれば一つになって反抗することができるのです。「偽りの一致、サタンによる一致」と言ってよいでしょう。初代教会の人々は、自分たちが迫害を受けた時に、詩篇二篇を取り上げてこのことを祈りました。「使徒 4:25-28 あなたは聖霊によって、あなたのしもべであり私たちの父であるダビデの口を通して、こう言われました。『なぜ、異邦人たちは騒ぎ立ち、もろもろの国民はむなしいことを企むのか。26 地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、主と、主に油注がれた者に対して。』27 事実、ヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人たちやイスラエルの民とともに、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもべイエスに逆らってこの都に集まり、28 あなたの御手とご計画によって、起こるよう前もって定められていたことすべてを行いました。」

3B 盗人のように到来される主 15

¹⁵—見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩き回って、恥ずかしい姿を人々に見られることのないように、目を覚まして衣を着ている者は幸いである—

イエス様は、ご自分が来られる時が近づいていることを、ハルマゲドンの戦いの預言を与えておられる途中でご自身が語っておられます。イエス様は、ご自身が盗人のように、突如として来られることを警告しておられました。「マタイ 24:42-44 ですから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主が来られるのがいつの日なのか、あなたがたは知らないのですから。43 次のことは知っておきなさい。泥棒が夜の何時に来るかを知っていたら、家の主人は目を覚ましているでしょうし、自分の家に穴を開けられることはないでしょう。44 ですから、あなたがたも用心していなさい。人の子は思いがけない時に来るのです。」

ハルマゲドンの戦いにおいて、主が最後に天から現れるのですが、それは地上再臨です。この時に、突如として来られるのではなく、主が思いがけない時に来られるのは教会の携挙です。これ

らの恐ろしい出来事から免れるために、主が戻って来られるのです。そこでイエス様は、オリーブ山において、「目を覚ましていなさい、用意していなさい」と繰り返して、励まされました。

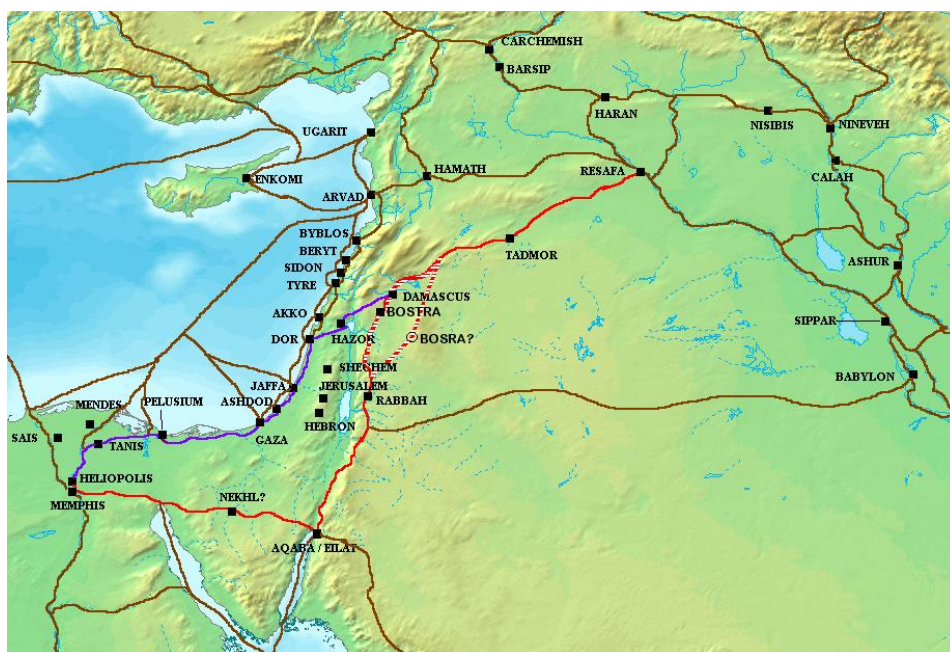
そして、「裸で歩き回って、恥ずかしい姿を人々に見られることのないように」と言われています。当時、番兵は任務中に寝ているのが見つかり、罰を受けたのだそうです。その罰は着ている物を脱がされ、裸で歩かされるという恥辱です。そのようにならない者は幸いであると主は言われます。これは、イエス・キリストを着物のように身につけていることです。パウロが、主の戻って来られることについて、次のように話しました。「ローマ 13:12-14 夜は深まり、昼は近づいて来ました。ですから私たちは、闇のわざを脱ぎ捨て、光の武具を身に着けようではありませんか。13 遊興や泥酔、淫乱や好色、争いやねたみの生活ではなく、昼らしい、品位のある生き方をしようではありませんか。14 主イエス・キリストを着なさい。欲望を満たそうと、肉に心を用いてはいけません。」

4B メギドの丘 16

¹⁶ こうして汚れた霊どもは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる場所に王たちを集めた。

「ハルマゲドン」というのは、二つのヘブル語によって成り立っています。ハルが山、マゲドンはメギドのことを表しています。ですので、メギドの山という意味です。メギドの山あるいは丘は、イスラエルのイズレエル平野の西、カルメル山脈のふもとにあります。イズレエル平野は、南北に山地が走っているイスラエルの土地において、東から西へ、また西から東へ渡るのに適している平地になっています。そしてイスラエル自身が、南はエジプト、北はユーフラテス川でその向こうにアッシリアやバビロンなどの、メソポタミア地方がある、二つの文明圏に挟まれたところにあります。貿易のための国際幹線道路である、海沿いの道「ヴィア・マリス」は、エジプトから地中海沿いを北上し、そしてイズレエル平野を横切って、ガリラヤ湖のカペナウムに行き、それからダマスコに行くのです。そのために、聖書時代の初期からずっと、実に現代に至るまで、そこが軍事衝突の要所ともなっていました。

古代は、エジプトのパロ、トトメス三世が北上してカナン



合軍をメギドで倒した、紀元前 1468 年のメギドの戦いの記録があります。そして、イスラエル平野で行われた戦いが数知れないですが、デボラとバラクが、カナン人の将軍シセラと戦った時、シセラはカルメル山沿いのキシオン川のところで倒れています。そしてヨシヤの時代、エジプトのファラオであるネコが、カルケミシュの戦いでバビロンと戦おうとして北上した時、ヨシヤが戦いに臨んだのでメギドで倒れています。そしてメギドが、ソロモンの時代に要塞の町として建てられました。その他も、数多くの戦いがありました。そして、近代において 1917 年、オスマン・トルコが英国と戦い、このメギドで衝突しました。将軍アレンビーは「メギドの主」という称号まで受けました。紀元前 1468 年から 1917 年までの間、この辺りで実に二百以上の戦いがあったと言われています。

ですから、ハルマゲドンと言いますと、何か象徴的な用語のように使われますが、そのようなものではありません。イスラエルのメギドに、全世界の王たちが集結して、それから神とキリストに戦いを挑むようになる最初の集結地点なのです。

2A 大地震 17-21

1B 事の成就 17

¹⁷ 第七の御使いが鉢の中身を空中に注いだ。すると大きな声が神殿の中から、御座から出て、「事は成就した」と言った。

神がついに、最後の鉢をぶちまけさせました。「空中」にぶちまけさせていますね、次にいなくとも雷鳴があるので、そうだとも言えます。けれども、空中は、悪魔は悪霊どもが支配していた領域で(エペソ 2:2)そこに影響を与えるためであったとも考えられます。そして、主なる神ご自身が御座から大きな声を上げておられます。神殿から出て来たとありますが、「事は成就した」です。これで全てのことが終わりました。子羊が父なる神から巻き物を受け取って、その封印を解いた全ての事柄がここで成就したということです。ここがクライマックス、全てのものが集結し、集約され、そして完成します。

2B 大地震 18-20

1C 史上最大 18

¹⁸ そして稲妻がひらめき、雷鳴がとどろき、大きな地震が起こった。これは人間が地上に現れて以来、いまだかつてなかったほどの、大きな強い地震であった。

大患難の終わりには、ここにあるように最も激しい天変地異が起こります。イエス様は、オリブ山でこう説明されました。「ルカ 21:25-26 それから、太陽と月と星にしるしが現れ、地上では海と波が荒れどよめいて、諸国の民が不安に陥って苦悩します。26 人々は、この世界に起ころうとしていることを予測して、恐ろしさのあまり気を失います。天のもろもろの力が揺り動かされるからです。」黙示録は地震だけ記していますが、天も激しく揺り動かされるようなものです。そして、これ

が人類の歴史最大の地震になります。

2C 大バビロンの崩壊 19

¹⁹ あの大きな都は三つの部分に裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。神は大バビロンを忘れず、ご自分の激しい憤りのぶどう酒の杯を与えられた。

次の 17-18 章で、主は詳しく、大バビロンの姿を見せられます。終わりの日に残っている神に反抗する存在は、獣の国だけでなく、ここにあるようにバビロンがあります。この大地震は、人間の高ぶりを潰すために、バビロンを始め人間の数々の町々を倒すためのものでした。そして、バビロンは、徹底的に、完全に、神の怒りを余すところなく受けることになります。

3C 山々と島々の消失 20

²⁰ 島はすべて逃げ去り、山々は見えなくなった。

七つの封印のうち第六の封印が解かれた時に、大地震が起こり、「6:14 天は、巻物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山と島は、かつてあった場所から移された。」とありました。けれどもここでは、もうすべて見えなくなったとあり、場所が移されたところではない天変地異が起こっています。このことによって主が何をされているのかと言いますと、イザヤ書には、「13:9 地は荒廃に帰し、主は罪人どもをそこから根絶やしにする。」とあります。また、「13:11 わたしは、世界をその悪のゆえに罰し、悪しき者をその咎のゆえに罰する。不遜な者の誇りをくじき、横暴な者の高ぶりを低くする。」とあります。私たちが自分たちに何かがあるという高ぶり、自分で自分を救おうとする高ぶり、これの根底を大地震によって崩すわけです。

3B 激しい雹の災害 21

²¹ また、一タラントほどの大きな雹が、天から人々の上に降った。この雹の災害のために、人々は神を冒瀆した。その災害が非常に激しかったからである。

雹による災いです。私たちは今年、夏なのに大きな雹が降ってきました。ここで「一タラント」は 35 kg ですから、おそろしいほど大きな雹が人々の上に降ってきます。けれどもなおかつ、彼らは神を冒瀆します。これほどまでに恐ろしいことは、神以外にはできないことを、彼らは認めざるを得ません。けれども、それによって彼らは神に悔い改めるのではなく、むしろけなすのです。これが、悔い改めの余地が残されていない、頑なな心の状態であります。私たちはどこかで、「この人にもっと機会が与えられていたら、悔い改めるかもしれない。」という期待を抱いてしまいます。しかし、地上において地獄を云わば経験しているのに、それでも悔い改めないのです。これが、永遠の地獄の姿でもあります。非常に苦しくて歯ざりさえました。しかし、神を罵ることしかしません。神は憐れみを示されても、それを拒む者たちは、憐れみ無しの裁きです。

私たちは、今、恵みの時に生きています。まだ、救われる機会のある時に生きています。「Ⅱコリ 6:2 神は言われます。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。」そして、救いとは、今見た、罪と不義に対する神の怒りからの救いです。「Ⅰテサ 5:9 神は、私たちが御怒りを受けるようにではなく、主イエス・キリストによる救いを得るように定めてくださったからです。」